

神像彫刻 重要資料 集成

〔全四巻＋別巻二〕

伊東史朗……総監修

二〇二六年十二月刊行開始
国書刊行会



国宝 熊野速玉大神坐像(和歌山・熊野速玉大社蔵)

全国に伝わる神像を都府県別に初めて集大成。
わが国宗教文化の全体像をとらえるための
画期的資料集、ついに刊行なる。



重要文化財 女神坐像(広島・御調八幡宮蔵)

本書の特徴と収録基準

■平安時代から鎌倉時代にかけての神像彫刻(「神」の姿をあらわす彫刻)を可能な限り網羅的に収録し、都府県別にまとめた初めての集成。国・地方の指定品だけでなく、未指定の作品、近年の調査によって明らかになった作品なども多数収録する。また、南北朝以後の作品も、指定品や在銘の基準の作品など、重要と思われるものを取り上げる。

■神仏習合像(吉祥薬師など)、垂迹像(蔵王権現など)、隨身を含む僧形像は、神像と考えられるものを収録する。

■解説は可能な限り実査に基づき、形状・法量・品質構造・保存状態・時代・伝来・銘記・参考文献など、基礎的な資料を提供する。

■図版は、正面写真だけでなく、両側面、背面、像底写真も豊富に掲載。国宝・重要文化財、および重要作品については細部をも掲載し、銘記・納入品等も収録する。

■巻頭には、総監修者による概説「神像彫刻を理解するために」を収録。最終配本の別巻には、神像概論、斯界の第一人者による各種論考を掲載。補遺、総索引を付す。



重要文化財 童子形神坐像(京都・石清水八幡宮蔵)



重要文化財 天忍穗耳命坐像(大阪・泉穴師神社蔵)

〔総監修者略歴〕
伊東史朗(いとう しろう)
一九四五年岐阜県に生まれる。名古屋大学文学部美学美術史専攻卒業。京都府立総合資料館、京都国立博物館、文化庁美術学芸課主任文化財調査官を経て、現在和歌山県立博物館長、京都国立博物館名誉館員。主な編著書に『平安時代彫刻史の研究』(名古屋大学出版会、二〇〇〇年)、『平安時代後期の彫刻 信仰と美の調和』(至文堂、二〇〇四年)、『十世紀の彫刻』(至文堂、二〇〇六年)、『千本釈迦堂大報恩寺の美術と歴史』(柳原出版、二〇〇八年)、『松尾大社の神影』(松尾大社、二〇一二年)、『日本美術全集4 密教寺院から平等院へ』(小学館、二〇一四年)などがある。



重要文化財 蔵王権現立像(奈良・金峯山寺蔵)

神像彫刻重要資料集成 〔全四巻＋別巻二〕

伊東史朗〔総監修〕

A4変型判／上製・豪華クロス装・貼函入／オールカラー
各巻四〇〇／五〇〇頁
予価Ⅱ各巻三五、〇〇〇／四五、〇〇〇円

【第一回配本】**第三巻 関西編二**

監修Ⅱ伊東史朗

四三、〇〇〇円＋税
2016年11月刊行

ISBN978-4-336-06083-9

〈収録〉三重県・大阪府・奈良県・和歌山県
国宝九軀、重要文化財一三二軀を含む、全三四〇軀。

【以後の配本予定】

※予告なく変更になることがあります。あらかじめご了承下さい。

【第二回配本】**第四巻 西日本編**

監修Ⅱ八尋和泉(別府大学客員教授)

2017年6月刊行予定
〈収録〉中国、四国、九州地方

【第三回配本】**第一巻 東日本編**

監修Ⅱ長岡龍作(東北大学大学院教授)

2017年11月刊行予定
〈収録〉東北、関東、甲信越、北陸、東海地方

【第四回配本】**第一巻 関西編一**

監修Ⅱ根立研介(京都大学大学院教授)

2018年6月刊行予定
〈収録〉滋賀県、京都府、兵庫県、福井県

【第五回配本】**別巻 論考・補遺**

2018年11月刊行予定
〈収録〉神像概論、各種論考、総索引および補遺、在外の重要作品

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 TEL:03-5970-7421 FAX:03-5970-7427 <http://www.kokusho.co.jp>

取扱店印

国書刊行会 神像彫刻重要資料集成

- [第三巻] 関西編二 定価:本体43,000円＋税 ()冊を申し込みます。
- 全四巻＋別巻一を()セット定期注文します。

お名前	
ご住所	
お電話	

申込書
ご記入後、お近くの書店へ
お持ち下さい。

神像研究の基盤構築へ向けて

伊東史朗

和歌山県立博物館長・京都国立博物館名誉館員

神像彫刻は仏像にくらべ知られている作品数がはるかに少ない。国宝・重要文化財に指定されているものでいえば、仏像の二十パーセントに満たない。調査の困難が主な理由ではあろうが、そのような状況が実態を反映しているといえないのは、一部地方において神像の調査が積極的に行われ、仏像に比肩しうる多くの作例が報告されていることからよくわかり、全国的にも同様のことが予測される。したがって、仏像と同じような研究基盤を築くためには、国や地方の指定作品はもちろん、各地の調査活動により知られた作品をも入れて、その全貌を把握する作業がまず必要となる。

本企画は、そのような学界内の要望を踏まえ、国・地方指定の既知のものだけでなく、近年の調査により見出された作品をも含め、可能な限りその図版と基礎的データを集成し、あわせて斯界第一人者による論考を添えて、神像の調査と研究の現到達点を提供しようとするものである。

本書の刊行により、わが国の神像の美術史的変遷、技法と構造、地域的な特徴など、渋滞していた神像研究が飛躍的に進展し、わが国の宗教文化の偏りない全体像が把握されることが期待されるとともに、神像が文化財として正しく評価され、その保存に役立つことが望まれる。

日本の精神文化をたどる意義深い出版

加藤隆久

生田神社名誉宮司・神戸女子大学名誉教授

恵まれた自然環境の中で、日本人は自然と親和的な精神文化をはぐくんできた。その上に仏教を受容したので、江戸時代までは、いわゆる神仏習合が日本人の自然な信仰であった。日本人は清らかな心をもって神仏の加護を受けようと社寺を参拝してきた。明治初めに神仏判然令が出されたが、家庭には神棚と仏壇のあるのが一般的で、今も伝統的な地域や家庭では、そうした信仰が継承されている。

最近、神仏の加護のもとに西国の神社と寺院が協力して相互巡拝を推進し、神威仏光の高揚を図ると共に広く宗教や思想信条を超えて人心の平安と社会の安寧に資することを目的として、「神仏霊場会」が設立された。

そして今、仏教の影響を受けながら「神の御姿」として古来あまた造像されてきた神像についての研究が盛んになってきている。

仏像と異なり、神像は御神体として直接目にすることが出来ないことも多く、今まで取り上げられる機会も少なかった。しかし近年は徐々に全国各地にまつられる御神像の調査研究が進み、この度「神像彫刻重要資料集成」として刊行されることになったという。

御神像という文化財を学術的に正確に把握し、研究成果を後世に伝えていくとするもので、日本にはぐくまれてきた精神文化の諸相をたどるためにも、非常に意義深いものと思う。この画期的な資料集成を茲に強く推薦するものである。

【組見本】(解説頁80%縮小、図版頁62%縮小)
↑解説は、形状、法量、品質構造、保存状態、時代、伝来、銘記・納入品等、備考、参考文献などを記載。
←図版は、正面、両側面、背面、像底写真を可能な限り掲載。重要作品については、細部や銘記・納入品等も掲載。

◆保存状態
（家津御子大神坐像）
面部に干割れが生じる。
（速玉大神坐像）
面部に干割れが生じる。左膝にうろ状の穴が生じる。
◆時代
平安時代
◆伝来
一、当社殿安置。明治二十二年（一八八九）の社殿流出時、その難を逃れた主祭神像。
二、昭和四十一年（一九六六）六月十一日、重要文化財指定。指定名称「家津御子大神坐像」「木造速玉大神坐像」「天須美大神坐像」。
◆備考
一、速玉大神坐像、夫須美大神坐像、家津御子大神坐像の三軀は、熊野速玉大社神像群「12-1-4」よりやや降る、十世紀前半ごろの造像と想定される。
二、速玉大神坐像と夫須美大神坐像に比して、家津御子大神坐像の像高をわずかに小さくし、跪坐させることは、熊野速玉大社の三神像「12-1-1、2、4」の特徴とも一致する。
三、速玉大神坐像と夫須美大神坐像の膝先にわずかに材を足すのは極力丸太状の一材から造形しようとするもので、また家津御子大神坐像の用材にうろ状の穴が見られることも含め、一種の神木を用いたものと見られる。
四、天照大神坐像は、これら三神像より量感を減らして穏和さを増しており、十世紀末〜十一世紀初めごろの造像と見られる。背面に彫が露出し、やはり神木に類する材が用いられているのであろう。
五、法量・品質構造・保存状態は参考文献を参照した。

【参考文献】

蔵田蔵編『秘宝 熊野』講談社、昭和四十三年
『重要文化財』編纂委員会編『解説版 新指定重要文化財3』、安藤精一編『和歌山県の文化財 第3巻』清文堂、昭和五十七
大河内智之『熊野の神像とその圖像継承——地域史叙述の観点』紀要二二一、平成二十七年

腹奥 三四・二 臂張 六三・五
座奥 五四・一 膝高(左) 一四・七
（夫須美大神坐像）
像高 九八・五(三二寸五分) 髮際高 八〇・八(二四・二)
頂—顎 三四・三 面長 一六・八
耳張 二二・八 面奥 二四・二
臂張 四〇・四 膝張 六八・〇
膝高(右) 一八・六
（家津御子大神坐像）
像高 八一・二(二尺六寸八分) 冠際高 七二・七(二二・四)
頂—顎 二五・四 面長 一五・九
耳張 二〇・〇 面奥 二二・二
臂張 四九・三 座奥 四一・八
（国常立命坐像）
像高 八〇・三(二尺六寸五分) 冠際高 七一・七(二二・六)
頂—顎 二二・六 面長 一六・〇
耳張 二〇・〇 面奥 二〇・八
臂張 五三・七 膝張 四八・五

◆品質構造

各像とも、木造（針葉樹）、一木造、彩色。
全身を一材から彫出し、木芯は不明。
（熊野速玉大神坐像）
像底の朽損部分に板材を貼り周囲全体を充填材で埋唐草文は白・丹・墨の縹細で彩り、墨線区画の縁に漆に墨線を引く。肉身部白肉色（朱の具）、髪、眉、上瞼、黒目は中心が墨、周囲を褐色及び墨線でくくる。唇朱（天須美大神坐像）
頭髪は左耳付近に先端の欠失した銅線を挿す。肉身、黒目は中心が墨、周囲を黄土色でくくる。唇は朱、下（家津御子大神坐像）
冠は褐色とし、額部は薄墨塗として透けたようにあ眉、上下瞼、黒目、唇の合わせ目、口髭、顎鬚は墨。



12-2 夫須美大神坐像 一軀 国宝 木造・彩色 像高九八・五cm……………新宮市 熊野速玉大社

